

第35回

名古屋大学附属図書館友の会トークサロン

ふみよむゆふべ

『エミール』の世界 ～その出版と教育への期待～

かたり：山内 芳文

(東日本国際大学特任教授・筑波大学名誉教授 元附属図書館長)

ジャン・ジャック・ルソー (Jean-Jacques Rousseau, 1712-1778) は『人間不平等起源論』や『学問芸術論』、そして『社会契約論』によってあまりにもよく知られた思想家で、またその著作『エミール』(Émile, 1762)は教育思想史に不滅の位置を占めています。

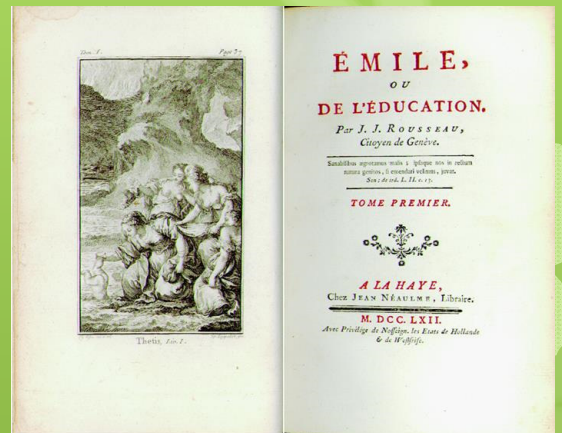
『エミール』はルソーがちょうど50才になってまもなく著した「小説」で、「エミール」という名の男子とその家庭教師である「私」を中心に、最終場面で「エミール」の伴侶となる「ソフィー」という名の女性のほかは、登場人物は数名にしかすぎません。「または、教育について」(ou de l'éducation)という副題が付いています。

この書物は刊行後まもなく、その自然宗教に関する叙述を理由に高等法院によって禁書となり、ルソー自身もやがてイギリスに亡命する羽目となりました。その草稿は3種類が確認されていますが、オランダとフランスでの複雑な出版のあとには、『エミール』そのものには、本人による改訂などはいっさい行われませんでした。しかしながら、そのような事情によって、かえって初版に偽版(海賊版)を生んだり、他者による再版にあたって校訂が加えられたりすることになったのではないかとも思われるのです。

今回は、そのような『エミール』初版にまつわるいくつかの逸話、それに『エミール』のもっている教育思想史上の価値についての理解が中心になります。「どのような境遇にあっても自分の力で生き抜いてゆくことのできる人間」

(homme)、そしてその「人間」が利己的でなく、道徳的な「市民」(citoyen)となるために、教育はどのような方法を講じたらよいのか、関連する図像なども用いながら、『エミール』から引き出した断片をつなぎ合わせて、現代にも通じるモチーフを読み取ってゆくことにしたいと思っています。

『エミール』の著者は「むすんでひらいて」の作曲者に擬せられていますが、その一節が含まれている歌劇『村の占い師』の一節をBGMとしながら、春の夕べ、この偉大な思想家の世界に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。



初版初刷オクタヴォ(八ツ折り判)
筑波大学附属図書館所蔵

2015年3月24日(火) 午後6時～

名古屋大学中央図書館2階ディスカバリスクエア

参加無料
申込不要
会員以外の方も歓迎します

名古屋大学附属図書館友の会

TEL 052-789-3666
FAX 052-789-3693
E-Mail tomo@nui.nagoya-u.ac.jp
URL <http://www.nui.nagoya-u.ac.jp/tomo/>

(後援)
名古屋大学附属図書館,
同研究開発室

